

熊本商工会議所・第33回 経営動向調査

平成16年9月期 結果報告書

業況DI マイナス33.2 対前期比6.8ポイントの悪化

～台風被害工事等により、建設業関連は好転～

調査結果のポイント

全業種の業況DIはマイナス33.2で、前回(平成16年6月期)調査との対比では、マイナス6.8ポイントの悪化となった。

前回(6月期)調査から業況が好転したのは、2業種で建設業(土木)が26.7(プラス23.3ポイント)、建設業(職別・設備)が、+16.7(プラス20.9ポイント)となった。

一方、悪化した業種は、製造業が51.6(マイナス22.6ポイント)、卸売業が45.8(マイナス15.4ポイント)、飲食業が54.5(マイナス12.8ポイント)、小売業が40.8(マイナス11.9ポイント)、サービス業が21.4(マイナス0.9ポイント)の5業種であった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、業況DIは33.2と前回調査と比較して、マイナス6.8ポイントとなり、一進一退の動きとなった。好転した業種は、建設業関連の2業種だけであったが、台風被害関連工事の受注により大きく改善。なかでも建設業(職別・設備)は、プラス16.7となり大きく好転した。

調査対象期間 平成16年7月～9月(平成16年度第2四半期)

調査期間 平成16年9月13日(月)～17日(金)

調査対象数 熊本市内 小規模企業 292事業所

回答数 192事業所(回答率65.8%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	31	83.8
建設業(土木)	22	15	68.2
建設業(職別・設備)	34	18	52.9
卸売業	35	24	68.6
小売業	71	49	69.0
飲食業	23	12	52.2
サービス業	70	43	61.4
合計	292	192	65.8

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(6月期)調査と比較した概況

全業種

製造原価・仕入(材料等)単価が改善したなかで、販売(受注)・客単価は、ほぼ横ばい。売上高、採算(営業利益)ともにやや悪化した。

全体の業況は依然として厳しいマイナスの状況にあり、前回(6月期)調査から悪化した。

業況D Iの変化 16年6月期 26.4 16年9月期 33.2

製造業

製造原価は大きく改善したなかで、販売(受注)単価は、ほぼ横ばい。しかし売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)は大きく悪化となった。全体の業況は、大きく悪化した。

業況D Iの変化 16年6月期 29.0 16年9月期 51.6

建設業(土木)

受注単価がわずかに悪化したなかで仕入単価は改善した。売上高が悪化したものの、採算(営業利益)は改善となった。全体の業況は、大きく改善した。

業況D Iの変化 16年6月期 50.0 16年9月期 26.7

建設業(職別・設備)

受注単価、仕入単価ともに改善した。売上高は大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。全体の業況は、大きく改善した。

業況D Iの変化 16年6月期 4.2 16年9月期 +16.7

卸売業

仕入単価がほぼ横ばいのなかで、売上単価はわずかに改善。しかし売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 16年6月期 30.4 16年9月期 45.8

小売業

仕入単価が改善したが、客単価は悪化。そして売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化した。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 16年6月期 28.9 16年9月期 40.8

飲食業

客単価は前回(6月期)調査から不変ながら、仕入単価が悪化。売上高がやや改善したものの、採算(営業利益)は悪化となった。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 16年6月期 41.7 16年9月期 54.5

サービス業

仕入単価(材料等)客単価ともに、やや改善した。売上高がほぼ横ばいながら、採算(営業利益)は、やや改善となった。全体の業況は、ほぼ横ばいであった。

業況D Iの変化 16年6月期 20.5 16年9月期 21.4

業種別の業況一覧

上段 = 対前期比

下段 = 対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (平成16年9月期)	前 回 調 査 (平成16年6月期)	今回調査との 比較ポイント
全 業 種	33.2	26.4	6.8
	36.7	32.5	4.2
製 造 業	51.6	29.0	22.6
	51.6	33.3	18.3
建 設 業 (土 木)	26.7	50.0	+23.3
	21.4	28.6	+ 7.2
建 設 業 (職別・設備)	+16.7	4.2	+20.9
	+16.7	8.7	+25.4
卸 売 業	45.8	30.4	15.4
	52.2	43.5	8.7
小 売 業	40.8	28.9	11.9
	42.9	44.4	1.5
飲 食 業	54.5	41.7	12.8
	81.8	50.0	31.8
サービ業	21.4	20.5	0.9
	29.3	22.7	6.6

来期(10月～12月期)の業況見通し

全業種における来期(平成16年10月～12月期)の業況見通しDI値は、9.5と今期(16年7～9月)の業況DI値33.2と比較して23.7ポイントの大きなプラスとなり、全体としては明るい業況見通しとなっている。

業種別では、来期の業況見通しDI値と今期の業況DI値を比べると、プラスとなった業種は、飲食業を除く、製造業、建設業(土木)、サービス業、小売業、卸売業、建設業(職別・設備)の6業種となっている。特に製造業+43.3ポイント、そして建設業(土木)+33.8ポイントと、ともに期待感が大きくなっている。なお、飲食業については54.5から、さらに20.5ポイントのマイナスで業況の悪化が見込まれている。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	来期の業況見込み (16年10～12月期)	今期の業況 (16年7～9月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	9.5	33.2	+23.7
製造業	8.3	51.6	+43.3
建設業(土木)	+7.1	26.7	+33.8
建設業(職別・設備)	+18.8	+16.7	+2.1
卸売業	29.2	45.8	+16.6
小売業	15.9	40.8	+24.9
飲食業	75.0	54.5	20.5
サービス業	+5.1	21.4	+26.5